川崎船

川崎船は、帆のある頑丈な木造トロール船であり、荒海でも漕げるような櫓を備えていました。川崎船という名称は、この船が最初に建造された福井県川崎村から来ています。川崎船は、江戸時代（1603～1867年）の後期から1945年まで、福井から北海道に至る日本海沿岸で使われました。明治時代（1868～1912年）の間、川崎船は、主に沖合のタラ漁に使われるとともに、本州・北海道間の交易と植民者の移動に使われていました。

釧路市立博物館に展示されている船は、実物よりも小さいものです。この船は、1983年に同博物館が開館した際に、地元の船大工である平岩一氏が建造したものです。